

店頭から「こんにちは」  
第5回

子どもたちと一緒に大喜び  
アマチュア無線で  
宇宙飛行士と交信！



宮川薬局(宮城県仙台市代表) 宮川季士先生  
みやがわとじし  
薬学博士・薬剤師  
プロフィール / 1976(昭和51)年、東北薬科大学卒業。78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。  
地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

老若男女を問わず、携帯電話で話したり、メールをしたりしている姿に、違和感を覚えないのでしょうか。今回は、いつもとは違って、宇宙と交信したときのお話を！。

交信できただけで喜ぶ！

携帯電話は、スイッチを押せば確実に相手に通じるのが普通です。

ただ、これに対して、受信機から相手の信号が聞こえていたとしても、交信に至らない世界があります。

だから、交信できたときの喜びは、やったことがある人にか分からぬ…。それがアマチュア無線の世界です。

プロの世界ではすでに使わなくなったモジュール信号による通信が得意な私は、今までヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ、

南極大陸など、世界各国の、何千もの局と交信してきました。

さて、アメリカ航空宇宙局(NASA)では、国際宇宙ステーションからアマチュア無線を使って、地球上の子どもたちが、宇宙飛行士に直接質問して、宇宙飛行士が宇宙から答えるという、NASAの教育プログラム

の1つ「スクールコンタクト」を、積極的に奨めているのです。

2年かけて、ついに本番

もう数年前になりますが、この「スクールコンタクト」を東北で初めて実現しようと、地域の無線仲間と計画しました。仙

台市立Y中学校で、夏休みにチャレンジしたのです。

このとき、私が宇宙飛行士とコンタクトをとり、中学生に次々に英語で質問させるといふ、責任重大な役であるコンタクトペレーターを務めました。

教育プログラムの申請、英語での質問練習、またアマチュア無線とはどういうものを教えるたりするのに2年の準備期間を経て、いよいよ本番！

交信風景は体育館へ生中継し、留学生による同時通訳の配備もしました。何度かの私の呼び出しに、アメリカ人宇宙飛行士が応答してきたときには、体育館中に興奮のどよめきが。

順調に生徒が英語の質問をこなしていくかに思いましたが、何人目かのときに、無線機にノイズが混入。

後2分で国際宇宙ステーションが、日本から遠ざかってしまふというときにノイズが消失、質問再開を。

結果は、20名、待機していた生徒たちのうち、数名しか宇宙飛行士とお話できませんでした。

ただ、このプロジェクトが終了したときの生徒たちの笑顔は、一生忘れられません。

東北初ということで、NHKをはじめとする地元テレビ局や新聞社が詰めかけ、交信室の異様な雰囲気味わえた生徒たちにも、きつといい体験になったことでしょう。

先日、70歳くらいの男性が来店され、帰り際に、「宇宙と交信して子どもたちに夢を与えた、この先生。オレはそういう人、好きだから、この薬局に来るんだからね」と。

こんなチャレンジを評価してくれる人がいて、私の心もほんわかでした。